

第1回 福知山市総合計画審議会（概要報告）

1 日時 平成27年7月23日（木）13:30～

2 場所 全議員協議会室

3 出席 委員 19人（6人欠席）

4 次第

（1）市長あいさつ・委嘱状の交付

（2）委員及び幹事の紹介

（3）審議会規則について

（4）会長・副会長の選出について

（5）議事

・ 諮問書の提出・提案説明

・ 今後の日程及び審議方法について

・ 報告事項（第4次総合計画の取り組み）

・ 福知山 未来創造プラン（案）について

・ その他

【審議の概要】（○：委員意見、⇒：市側回答）

○今まで1次からずっと継続してきた、第5次総合計画という言葉はもう今後は使わないということか。

⇒はい。第5次総合計画という表現は使いません。

○何故、過去からずっと続いてきたものを使わないとされるのか、その意味合いを説明していただきたい。

⇒これまでの10年という考え方は、全国の国の開発計画ですとか、都道府県の計画、他の市町村の計画も国の計画に合わせ、高度成長期も含めました基盤の整備という意味合いから、10年間はこういう計画でやっという国全体としての方向性がありました。

ただ、現在福知山市におきましても、これからは25年とか30年、あるいは50年先というような長期スパンの上でまちづくりを考えていく方がしっかりとしたまちづくりができるということで、その刻みを10年ではなくした

というところで、5次という表現も必要なくなったということで考えているところでございます。

○法律体系から言えば、自治法の中で位置付けがなくなった以上、総合計画というものは法的にはもうない。本来ないものを総合計画審議会という名前を付けていること自体がおかしいと思うが。

⇒これは条例で定められている会議でありまして、この福知山未来創造プランというのは、まだ案というようなことですので、案の段階でまだ条例の名前を議決いただくというようなことは出来ておりませんので、そういうことでご了承いただきたいと思えます。

○25年間にわたるビジョンというのは一体何か、理念を明確にしてもらいたい。極端な言い方をすれば市民憲章がそのまま福知山の市是であるだろうと。そこに訳の分からないものをたくさん引っ付けて、葉っぱがたくさんありすぎて意味が分からない。もっと明確に、福知山市はこれというものを出していけばそれで済むのではないか。総合計画というイメージにとらわれ過ぎて、同じようなスタイルで文書を作っているの、非常にわかりづらい。市民憲章を具体化するためにこの5年間で何をするか、こういう組み立てにすればもっと分かりやすいと思うが。

⇒確かに市民憲章が市の基本的な価値観という事で、このことを具体的に実現して、もう少し分かりやすく表現した部分がビジョンというふうに考えているところですが、分かりにくいという事でしたので、5ページのところですが、そこで目指す姿を掲げているところではありますが、一つ目の誰もが生きがいを感じるまちということで、ここは人権と生きがいというような事を書いております。二つ目のところに多様な活動が書いてありますが、人材育成というようなことをここで表しているようなこととございます。それから3番目の多様性にあふれた新たな価値の創造というところでは、先程都市構造図のところでご説明させていただきました都市的なエリアについての考え方、それから4番目の豊かな環境や文化を活かしたすべての地域が輝くまちというところでは、農山村地域のエリアで人口が減少していくというような状況の中でも、住み慣れた地域で暮らし続けていくことができるような仕組みづくりをめざさないといけないというようなことを書いたところでございます。さらに5番目のところは、文字通り、安心・安全に暮らせるまちということで、特に2年連続で災害があった福知山市としてはこの部分を特筆しておく

必要があるだろうということで書いております。この部分は上のほうの部分と重複する部分があるかもしれませんが、敢えて抽出したというところがございます。

それからまちづくりの大きな転換期という事で、これまでたくさんの公共施設を整備してきたところがございますが、福知山市は、現在の人口でも、全国平均の約2倍に近い公共施設がある状況でありますし、人口の現状維持はめざしていくところではございますが、多機能化といいますか、一つの目的のために一つの施設を作るということではなくて、一つの施設を複数の機能で使っていくというようなことをやっていくことも必要になってきますし、それと市民協働というところも申し上げているところですけど、自助・共助・公助の中で依然として公助が非常に大きなウエイトを占めている状況がありますが、これに対し自助・共助を進めているところでございます。

○4回程このビジョンのところを読んだが、結論として何が書いてあるか分からんというのが感想。都市的機能を活かしながら、周辺地域を活かしていくまちづくりをしていくと、そういうことを語りたいと思われる。そのためには、市民協働とか市民が主体とかそういうまちづくりを進めたいということは分かるが、表現が行ったり来たりになっているのではないかという見方もでき、こういうまちづくりを25年進めていくという事が見えてこなかった。

「わ」というのは、そういうセンテンスを立てるのはいいと思うが、例えば「我」のような「わ」とは呼ばないものが一緒に入っていたり、ある範囲においては同じ事を言っているというところがあったりで、非常に意図するところが一定の議論なり、体を熟したような表現になっていないと思う。

それから見出しであるが、見出しをみれば流れが分かる、内容が分かるというようなものをたてるべきだと思うが、そうっていない。基本計画のほうは分かりやすかったが、そこの整合とか繋がりとかが良く分からないところがある。

それと、まちづくりの大きな転換期を迎えていますと書かれているが、何をどう転換する転換期なのか見えてこなかった。これは10年計画を25年計画にするというところの重要なファクターだと思うが、それが見えてこない、これからやり方を変えていきましょうということにはならないと思う。

それから文書全体のことであるが、私達がめざそうとするじゃなくて、私達がめざす福知山の未来の姿を以下に示しますなら分かる。これは市民とともにまちづくりをすすめるという宣言なわけであるから、そこのところの文書の作り方、進行も含めていかなものかなと思った。

⇒このビジョンの中では更に市民協働を進めて、市民主体のまちづくりというのを実現できるような状況というのを、2、30年先のまちの姿として描いています。そういったところを含めて大きな転換期を迎えているようなことを考えているところでございます。

見出しが分かりにくいですとか、文書が行ったり来たりということについては、またご意見を頂きながら整理をしていきたいと思っております。

○この事業のところを読ませていただいても、まちづくりの大きな転換を迎えていると書きながらも、下には新たな福知山というふうに書いてある。何をここでしようとしているのかも分からない。それから、文章の組み立てで国の政策の事を言いながら、本市は、という書き方をしており、そこにまた、また、また、またと書いてありちょっと読みづらい。もっと市民が読みやすい文章にしていきたいと思う。

⇒またご意見を頂きながら整理をしていきたいと思っております。

○「この長期ビジョンを5年スパンにするのは国の法律、政策の見直しでは5年でしております。」それは分かるが、この25年間で長期ビジョンやという根拠はどこにあるのか。この設定された根拠を教えてください。

⇒はっきりと25年という事ではなくて、人口の目標を2040年には何人というのを9月までには掲げることにしています。それが一つの大きな根拠でございます。これは、国の地方創生の取り組みで、それぞれの地方の人口ビジョンというのを掲げなさい、もちろん努力目標で、義務ではないといわれていますが、結果的にすべての市町村が掲げることになってきますので、それが一つの根拠であります。

○市民協働推進会議委員の頃からこういう問題に携わってきたが、内容的にはまた1からの振り出しに戻って審議しなければならないのかなという気持ちである。でもこれまで審議してきた事に対しては、ある程度責任を持って、一応、市民協働推進会議委員の皆さんの代表としてご意見を頂いたことを受けての提案と思ったので、この案を「何々です」じゃなくて、「何々しましょう」という形で市民協働により進めていく必要があると思う。

○目標としている都市構造図の地域区分はもともと新市建設計画にあったものと基本的に変わらないと思う。地域の特徴を分けただけなので、このように

なると思うが、転換期で25年を目指すなら何か変わったものが入っているのだろうか。というのは、3つの緑の丸をつけたことと、小さな拠点というのを位置づけたわけである。小さな拠点というのは地方創生の中での一つの過疎山間地の目玉的な位置づけになっているので多分ここに入れたのだと思うが、拠点として位置づけるというのであれば、もうちょっとそれぞれの地域に合ったような機能をしっかり行政として確保する努力をしますよ、そのために住民と一緒に頑張りましょうという、そういうことが見えてくるような解説、イメージを見せていかないと、周辺のこともちろんと考えてくれて、我々も安心して暮らしていけるような内容になっていかないのではないかと思う。やはりその地域で頑張ろうとしておられる方と一緒にこの地域の位置づけ、あり方、将来はどうするのかということを引き合話をしながら、それぞれに合った形の計画というのをやっていかないと、本当に階段落ち、国の施策にあわせた形の政策にしかならないというように思っている。

○私も4次総合計画策定時から携わっているが、市民憲章をビジョンより先に持ってきてもらい、我々としても非常に責任を感じている。率直に申し上げて25年というスパンが分からない。人口ビジョンを提出しなければならないということは分かるが、そのスパンで考えていくという必然性が見えてこない。4次までの流れということもあり、総括というものもあった中で、この5年間でどう伝えていくかというそういう継続性っていうところはやっぱり大事なところだと思うので、特にこのビジョンのところ、3ページから5ページについては、ちょっと無理な表現とか、分かりにくい表現が非常に多いと思うので、未来の姿というのは表題の問題があるかなと思うが、もう少し整理される必要があるのではないかと。再度検討していただいて、整合性のあるものを次回出していただきたい。

⇒一つにはこの中にも出てきておりますまちづくりの目標というものがございませう。冒頭のところで人口の目標というものを掲げて、9月末までに、2040年までには何人の人口にする、という事を掲げていくわけですが、人口規模といいますのは、まちづくりの一番の根幹のところに関わってくるというふうに考えます。それが国のほうでは2060年に現在の1億2,000万人を1億人というのを目指していくという中で戦略というものを作っており、福知山市としても2040年には何人というのは掲げていきますので、それを実現できるようなまちづくりというものの姿が先程ビジョンのところの説明させていただいたようなところを実現していけば、限界集落は限界集落ということなりの生活がしっかりと維持できるということを進めていき

たいなという思いでこの部分は書いております。分かりにくいという事でありましたら、表現を改めるなり、またご意見を頂いてやっていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

○人口が減ることは問題だと思うが、目標として人口をいかに止めておくかということがまちづくりの課題になっているとすると、それはちょっと違うような気もする。その中で住んでいる人々がいかに幸せを感じるのかという、そういう部分が見えてこない感じがする。人口を減らさないための目標となると、例えば外国人の方を呼び込むとか、そういう考え方も出てくるので、やっぱり住んでいる人、市民一人一人がいかにこのまちで幸せを感じるかという、幸せのあり方みたいなことがもうちょっと見えるといい。

10年前、合併する前は、三和町単独では人口が当時5,000人くらいいたのが、現在は3,600人くらいまで減っています。それが合併することによって、福知山市では消滅しないことにはなりますが、三和町単独で考えると消滅する可能性があると思う。福知山市が都市的な考え方で、そこから恩恵を受けるといいと思うが、地域にある魅力を更に活性化させようという方向性なのか、とりあえず人口をなんとか止めておくということが目標なのか。人口よりも、まちづくりの幸せというか市民憲章で「幸せを生きる」ということが、そこをもうちょっと明確にしていくといいのかなという気がする。

⇒まさに「幸せを生きる」というのを冒頭に掲載をしておりますので、これを具体化していくいくつかの形が5ページのところで掲げさせていただいております未来の姿だと我々考えておりましたので、その点についても再整理が必要かというふうに思っております。

農山村の活性化なのか人口なのかということなんですけど、5つの目指す姿の中で、3番目の多様性にあふれた価値観の創造のところ、都市的エリアの機能の充実というの必要があるのでしょうし、4番目の豊かな環境や文化を活かして全ての地域が輝くまちというところでは、限界集落と呼ばれるところも含めて、2、30年先にもそれなりの生活が出来るということを確認していく、そのためには小さな拠点、先ほど委員さんから「小さな拠点というのは色々な形があり、中学校区単位ということもありえると思う。」と言われたとおり、すべてのところが先程の絵の中のように揃っている所ばかりにはならないでしょうし、機能だけじゃなくて外面というようなところで、コミュニティバスとか、デマンドタクシーなどでつなぐことで補っていくことによって、当然すべての地域が輝くまちということを実現していかなければならないと考えております。

それと、人口に関してなんですけど、これまで以上にいわゆる定住対策をやっていく必要があると思っております。全国に向けて発信する時には、福知山の魅力というのはまち中ではなくて、周辺地域の自然豊かな日本の原風景が見られるまちということが売りになっていくとも思います。実際に都会から農家民泊など経営するために来られる方も大勢おられます。そういう方々は、福知山の周辺地域はとても魅力のある地域だとおっしゃっておられますし、そういうことをしていくことによって、活性化にもなるでしょうし、結果的に人口に結び付くのではないかとということもありまして、中心市街地は中心市街地なりの施策を打っていきますし、周辺地域にはその魅力を活かした定住対策などを含めた施策をやっていくというようなことも、この5ページのところに思いとして書かせていただいているところでございます。

○ビジョンというのは、これはとても大事なことだと思う。このビジョンというもの、色々な捉え方があって抽象的になってしまうのはやむを得ないかなと思う。いずれにしても市民憲章を生かすような形のビジョンだなと思うので、もうちょっと市民憲章の中身に合うような形にされたらどうかと思った。基本計画はそれぞれの章の具体的な施策が展開されるので、特に第1編のところはとても重要なところであり、色々解釈ができるという意味ではこういう形でもやむを得ないという感想である。

○少子高齢化、人口対策で、このあたりはこの通りだと思うが、気になっている数字が、単身世帯、同居者を持たない単身者というのが非常に増えてきている。3軒に1軒は一人暮らしという地域が出てくるということで、このことは当然、医療・介護に関係する話でもあり、それから「共に幸せを生きる」ということを我々言うておりますけど、幸せの構成範囲の社会の末端はやっぱり家庭であるので、そこで同居家族がいない状況というのは誰も今まで経験したことがないことが起こりつつあるということで、そういう意識のもとに、単身者世帯の急増ということも問題意識の中に持っていなければいけないので、またお考えいただけたらと思う。ちなみに、もし分かるようでしたら、最新の単身者世帯数というのを教えていただきたい。

⇒それは次回という事でお願いします。

○社会潮流の13の交通基盤のところであるが、京都縦貫自動車道の開通で市民の生活圏の拡大が予想されると書いてあるが、この生活圏がどう広がるのか全然イメージ出来ない。生活圏が広がるからこういう事をしましょうと

か、現実には地域でサロンやカフェを作って交流を深めようということとか、小さな拠点が大事ですよという言われ方をする中で、広域化というふうな形でやると、本当に暮らしている人の要求とかけ離れたような施策課題になっていくのではないかなという気がする。書くなら書くで、それなりの根拠をしっかりとって書いてもらいたい。

それからまちづくりの重要視点というところ、それぞれの解説文書のところで、まちづくりを「めざします」というようなことが書いてあるが、まちづくりをめざすという言葉は凄く違和感があって、「まち」をめざしますとか、「まちづくり」に取り組みますとか、努力しますということなら分かる。

- 今一番問題になっているのは何かといたら、社会保障が手厚くない、手薄な、稼働年齢世代で、そこに雇用の流動化が起きている。だから生活困窮者が増えてくるし、子どもの貧困といったことも出てくる。そう意味では、これを見ると年寄りが増えたから社会保障費が増えて大変であるということだが、そうではなくて、一番の大きな問題が抜けているのではないかと思う。そういう意味では、社会潮流の捉え方がちょっと上滑りしているような気がする。

さらに、3番目の人権・生命の尊重のところ、物質的な豊かさに対応する言葉がない。精神的なものと言ったら何か。一方でグローバルといっている以上は、メンタルじゃなくてスピリットという捉え方もしておかないと、世界の中の日本、世界に開かれた福知山にならない。そのあたりの捉え方がどうなっているのか。

それから格差の広がりによる貧困層の拡大ということであるが、これ本当に深刻な問題で、貧困による格差というのは、子どもにとっては希望の格差である。こういうふうに頑張りたい、こんな大人になりたい、こういうふうな希望に既に格差がある。この貧困の問題とか、稼働年齢世代の問題に目を向けて、高齢者と子育て、この二つだけが課題であるかのような捉え方をすると、20年、30年先の福知山を描く上では十分ではないような気がするの、そのあたりを明確にいていただいた方がいいのではないかと思う。

- 生命・人権にかかるという項目があるが、ここで分析していただいている部分については本当にその通りだなと思う。実際に身体障害者の中にも色々な人がおり、今こういう格差が広がっている中で、やっぱり弱者と言われるところの障害者で、障害を持つことによって就労できないとか、家庭環境が悪くなってきたりする中でこういう問題への対応に期待があると思う。今後の取り組みとして、私も障害者のことについては、共に生きる、共生社会とい

うものを今後もこの計画の中に活かしていただきたいと思っている。そこで1点、この中に自殺者の推移が書いてあるが、事情について分析していただいた方がいいかと思うので、よろしくお願ひしたい。

○21ページに高校生のまちづくりのアンケートが載っているが、市民協働ということを知らない、もしくは内容をよく知らないという人の割合が78%ということで、これと照らし合わせた時に、高校生と、この資料の4番のまちづくりの方向性ということで私が気になったのは、子育て環境が充実し、子ども達が健やかに育つまちが57%の意見が多く見られているということである。これを考えた時に今後25年間のビジョンの中で、今高校生の18歳の子が25年たったら43歳になるという長いビジョンの中で、こういう協働ということの中に、本当に子ども達が安心して、ちゃんと理解をして、この福知山市総合計画、これが本当に意味のあるものになるのかなということちょっと危惧した。それと、3ページ「わ」というのはすごく必要な事であると思う。この人のつながりとか、コミュニケーションとか個々の取り組み、協力しあう関係、その環境というのは凄く大事な物であって、この言葉をどういうふうにもこの計画の中に盛り込んでいくのかということも思った。

○防災支部の責任者としてこの場に来させてもらったので、一点だけ発言をさせていただきたい。19ページの、安心・安全な社会の構築というところに書いてあるように、ここ2年、私達の地域でも毎年のように床上浸水で大変困られて、畳の入れ替え、あるいは壁の修理等、毎年自分のところで復旧しながら地域で頑張っておられる。床上浸水になると家で食事ができないので、地域で支援をしていただいているのをよく見ているが、この文書を見ますと、そういう方に対する行政の支援はあまり表現をされずに、自分の財産、あるいは命は自分で守れよ、そういう人たちは地域で支えていけよと、それによって誰もが安心して暮らしていけるまちづくりを作っていきましょうと、こういう文章になっているが、行政としてどう支援をしていくかという表現がもう少し的確にしていただけると有り難いと感じた。

○ときどき、公助が外してある文書がある。よほど気をつけないと、自助・共助さえ頑張れよと、行政が自分達は知らんで、という印象を与えていると思うので、公助を記載しない場合はしっかり考え方についてのフォローを入れていただかなければ、違和感だけが残る。

⇒公助を外すという場面については、慎重にということも心がけてきたところ

ではありますので、更にそのところはしっかり検討します。公助がないという訳ではなく、真っ先にはまず自分の命は自分で守っていただくということは当然のことであると思いますので、そうであれば公助の役割とは何なんやというところをしっかりと書かせていただきたいと思います。

○全体的に理想論であって、現実的ではない、欲張り、そういう印象を受けた。抽象的というのは仕方ないと先程あったが、大きく力を入れていくところと、そうでないところをはっきりすることは駄目でしょうか。おそらく25年後はまだ生きていますので、現実問題として、もうちょっとしっかり具体的に考えたいなと感じた。だからと言って、無意味に活字を長くするのではなくて、簡潔に分かりやすい表現、短い文書でわかりやすい表現で、正直1ページでも短くして、内容をよく読めるようにして欲しいなという印象である。

○私も難しい会議に首を突っ込ませてもらったというのが正直な印象。皆さんの話を聞いていると、本当に25年という長い見通しで考えて行って良いんかなと議論の中で改めて感じた。それからエリアの問題について、もっと具体的にこの地域はこういう共同体を作っていくとか、そこまで話が行かなかったら、割り当てだけして、そこは勝手に考えなさいでは、なかなか進む問題ではないと思う。それは地域のエリアの問題だけでなく、子どもの教育とか子育てに関するところまでくると思う。凄くこのエリアの問題というのはもっともっと真剣に考えなかったら、やっぱり地域割りは、地域割りで片付けてはいけないなという印象を受けた。